

# 城里町が推進する 水道の啓発事業

横浜ウォーター、茨城キリスト教大とセミナー

茨城県城里町は、施設更新時期到来に伴う支出増と人口減少等による収入減という課題に直面している。一方で、令和6年度に茨城県が推進する水道広域化へ参画することとを決定しており、今後、県水受水を前提として、浄水場をはじめとした施設の統廃合、配置最



加倉井主幹

適化に取り組んでいくことが必要がありました」と述べている。同町の水道事業が大きな転換期を迎えているなか、課題となっているのが「住民との対話不足と水道への住民の関心の低下」だという。加倉井主幹・城里町上下水道課主幹は「水道は生活の基盤であるにもかかわらず、その重要性や課題に関心を持たない住民が多く、特に若年層との接点が乏しい状況でした。また、茨城県内において水道の広域連携が進む中で、住民に対しその必要性や効果を十分に説明する場がなく、持続可能な水道事業に向けて住民の関心をより上げていく必要がありました」と語る。

こうした状況の中、城里町は令和6年度に国土交通省の「水道事業の啓発に向けた調査検討等及びセミナー企画運営業務」に参画した。国交省から同業務を受託した横浜ウォーターから協力依頼があったことがきっかけで、同社とは5年度に業務で委託契約をしたことで接点があったという。

セミナーは、茨城キリスト教大学の協力を得て令和6年10月に実施した。セミナーは全4回の開催で、水道についての基本的な知識の講義や、城里町の浄水場等を実際に見学してもらうなど、前半は「インプット」を中心に、後半は前半に学んだことをもとに、「将来の水道のあるべき姿」について、ワー

クショップ形式で意見交換をしてもらう「アウトプット」重視の形式で実施した。

現地見学は、浄水場の見学のほかにも、複数の浄水場で作った水を飲み比べてもらう利き水や、水道に関する〇×クイズなど、水道事業に関するものに加え、町内にある藤井川ダムなど水に関する施設の見学、城里町の特産品「古内茶」のほ場

## 水道事業の啓発に向けた調査検討等及びセミナー企画運営業務の概要

国土交通省の事業「水道事業の啓発に向けた調査検討等及びセミナー企画運営業務」は、若年層が水道の歴史や現状を理解すること、将来あるべき水道のあり方やその負担を議論し、同世代へ向けたメッセージをつくりあげていくことを目指すセミナーを企画、運営すること、若年層に水道に対するより一層の理解を求めることを目的としている。令和6年度、7年度のいずれも横浜ウォーターが受託している。

## 若年層の水道への理解促進へ

### 横浜ウォーターが企画・運営

久保田裕史・横浜ウォータープロジェクトリーダーは「参加者の多くから『地域の水道を考える良いきっかけになった』という感想があがっています。城里町では、セミナーの後に水道カフェというイベントを企画したところ、セミナーに参加した学生が運営に協力するという好循環が生まれています。また、長野県立大学では、秋葉芳江教授が担当する授業『ギョレター概論』においてセミナーを開催しました。今年度の後期からこの授業のシラバスに水道に関する講義を組み込むことが決定しているとのこと、成果を話す。

令和7年度はこれまでに、城里町および専門学校文化デザイナー学院とのセミナーを実施している。広告プロモーションデザイナー学科の学生が参加し、4回のセミナーでは、前半で講義や水道施設の見学などによって水道に関する知識のインプットを行った。その

啓発に係る手法の可能性を見出すことができたと感じています。引き続き様々な地域でセミナーを開催することで、プログラムを確立させることも、多くの好例をつくり、全国の横展開につなげていきたいと考えています。今後セミナーを開催したい地域があればお声がけをいただけたら。また、横浜ウォーターとしては、水道への理解増進に加え、水道を支える人材を増やしていくため、水道の魅力の発信にも注力していきたいと考えています」と今後の意気込みを語っている。

## 国交省セミナーに参画 水道カフェで対面交流による広報

水道カフェで利き水体験



水道カフェで利き水体験

見学など、「地域と水」が密着に関係していることを意識できるような内容とした。また、水道事業に携わる職員を含めた公務員の仕事についても説明するなど、幅広く「水や水道、水道事業に関わること」についてのインプットの機会とした。

加倉井主幹はセミナーの成果について「学生たちの意識の変化、そして

令和7年度はこれまでに、城里町および専門学校文化デザイナー学院とのセミナーを実施している。広告プロモーションデザイナー学科の学生が参加し、4回のセミナーでは、前半で講義や水道施設の見学などによって水道に関する知識のインプットを行った。その

啓発に係る手法の可能性を見出すことができたと感じています。引き続き様々な地域でセミナーを開催することで、プログラムを確立させることも、多くの好例をつくり、全国の横展開につなげていきたいと考えています。今後セミナーを開催したい地域があればお声がけをいただけたら。また、横浜ウォーターとしては、水道への理解増進に加え、水道を支える人材を増やしていくため、水道の魅力の発信にも注力していきたいと考えています」と今後の意気込みを語っている。

## 特集 中小規模水道の持続に向けて



文化デザイナー学院の学生が表現物を制作

次頁に続く



# Yokohama Water

With water for the future and beyond

## ちから あなたのまちの技術になる

上下水道事業運営をサポートする横浜市水道局100%出資団体です。

横浜ウォーター株式会社

<https://yokohamawater.co.jp/>

☎ 045(651)6100(代表)

